

【平成 25 年 6 月定例会(第 2 回)】

開会にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

本日は、平成 25 年 6 月市川三郷町議会第 2 回定例会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、ご多用の中、ご出席を賜り、ここに定例会が開会できますことに、厚くお礼を申し上げます。

また、平素町行政の推進にご理解とご協力をいただいておりますことに、併せて感謝を申し上げます。

はじめに、町政課題であります。第 1 に財政規律を守り、町財政の再建と健全化。第 2 に南海トラフ巨大地震への備え、防災・減災。第 3 に、人口 2040 年問題。第 4 に 2 病院経営統合問題。第 5 に山梨 2013 第 28 回国民文化祭であります。

第 1 の財政規律では、合併特例措置後の地方交付税算定換えによる交付額は、平成 28 年度マイナス 1 億円、平成 29 年度マイナス 3 億円、平成 30 年度マイナス 5 億円、平成 31 年度マイナス 7 億円、平成 32 年度マイナス 9 億円、平成 33 年度マイナス 10 億円となります。

「入るを計りて出ざるを制す」を基本とする財政運営となります。

第 2 に、南海トラフ巨大地震への備え、防災・減災では、南海トラフ巨大地震の対策を検討していた国の有識者会議は、5 月 28 日、地震予知は現状では困難と認め、備えの重要性を指摘する最終報告をまとめた。

報告書では、家庭用備蓄は、1 週間分以上、死者は最悪の場合 32 万人、建物の全壊 239 万戸、経済損失は 220 兆円、死者の数では東日本大震災の実に 18 倍、太平洋側は壊滅的な被害想定であります。

さらに巨大地震と連動する富士山噴火であります。近隣県、近隣市町村の同時被災に備えて、広域連携の枠組みづくりなど、綿密な防災、減災計画が急務であります。

第 3 の人口 2040 年問題であります。

3 月 27 日、厚生労働省国立社会保障・人口問題研究所が発表した、地域別将来推計人口では、2040 年の人口を 2010 年比推計値として、山梨県が 19 万 6,900 人減の 66 万 6 千人、減少率 22.8%、峡南 5 町では、市川三郷町が 5,600 人減、1 万 1,500 人、減少率 32.9%、富士川町が 5,600 人減の 1 万 700 人、減少率 34.4%、身延町が 7,600 人減の 6,800 人、減少率 52.7%、早川町が 790 人減の 460 人、減少率 63.2%、南部町が 4,300 人減の 4,600 人、減少率 48.3%、峡南 5 町で実に 2 万 3,890 人減の 3 万 4,060 人という数字であります。

県下 27 市町村の中で、峡南地域の減少が最も高い推計値となっております。

さらに 2100 年の日本人口の推計が出されましたが、高位推計で 6,407 万人、中位推計では 4,771 万人、低位推計では 3,770 万人、これは 1868 年の明治維新が 3,330 万人でありますから、この時代の人口ということになります。

このことから、人がいなくなる地区が増える、あるいは取り残される人がいる地区が増えるなど、人口減少、超高齢化時代をしっかりと考察する必要があります。

第 4 の 2 病院経営統合では、4 月 1 日の一部事務組合設立から、職員 6 人体制で、平成 26 年 4 月 1 日の新病院峡南医療センターの開院準備を、小林局長中心に、精力的に進めているところであります。

第 5 の山梨 2013 第 18 回国民文化祭では、8 月 7 日第 25 回神明の花火、10 月 12 日から 20 日まで美術展「書」、それに町おこし事業としての講演会を計画しております。

平塩の丘には、夢想疎石〔そせき〕(国師)の母の墓があります。夢想疎石は、鎌倉後期から南北朝時代の臨濟宗の僧で、後醍醐天皇、足利尊氏等の帰依を受け、7 代の天皇から国師号を贈られております。

京都 5 山の第 1、臨濟宗、天龍寺派の大本山天龍寺を開山しております。この天龍寺の管長佐々木容道猷下先生による講演会であります。

本日、ご提案申し上げます案件は、条例改正 2 件、条例廃止 1 件、規約の変更 1 件、平成 25 年度一般会計、特別会計補正予算 9 件の、合わせて 13 案件であります。

それでは、報告事項の説明を申し上げます。